

臨床研究に関する公開情報

西新潟中央病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] コロナ禍における重症心身障害児（者）病棟での小児期のターミナル
ケアを振り返って ～家族ケアを考える～

[研究責任者] 1病棟 渡辺志穂

[研究の目的]

我が国では、医療技術の進歩とともに小児（0～19歳）の死亡数は減少し、平成27年では4834人であり、このうち乳児が約4割を占めている。死因は0～4歳までは先天奇形や染色体異常が1位である¹⁾。

今までの重症心身障害児（者）病棟では、療育を中心に置いた機能維持を目指してきた。しかし、近年は人工呼吸器使用等の重症患児の入院が増え、医療的処置を含めた看護が求められるようになった。

このような変化の中、当重症心身障害児（者）病棟で、初めて小児期の看取りを経験した。今回の患児(以後、「患児」で統一する)は染色体異常や代謝性疾患の進行性の病態で、根治的治療はなく症状の緩和が主となる疾患であった。看取りの時に母から「もっと抱っこしてあげればよかった」、祖父から「抱っこしたのはこの子が2ヶ月の時以来だ。こんなに大きくなってたんだな」等の言葉が聞かれた。ご家族の言葉を聞いて家族への看護として、もっと何かできることがあったのではないかと考えた。

子どものエンドオブライフケア指針¹⁾では、重度の心身障害と共に生きる子どもと家族へのエンドオブライフケアの実践が唆されている。今回の症例で、日頃より入院してから家族の個別性を考えた支援計画を立て、患児の状態や反応を家族とともに見ながら「今、この子」に何が必要なのかを共に考え「子育て」の視点で日常の世話・ケアを実践していくことが大切と感じた。

今回、患児の経過を追いながら、ターミナル期のより良い家族ケアを行っていくための課題を明らかにし、コロナ禍において家族が頻度に面会出来ない中、看護師は何を考え何を優先し、日々の家族ケアを行っていたかを知るため、看護師に聞き取り調査を実施する。有効だったケアと困難に感じた家族ケアを明確にすることで、重症心身障害児（者）病棟でのターミナル期を過ごす家族への看護介入を行っていく為の課題を見出し、ケアに活かしたい。

[研究の方法]

●対象

重症心身障害者1病棟に勤務し、今回の対象児を受け持ったことのある2年目以上の看護師で本研究に同意を得た13名

(1年目を含めなかった理由：病棟配属してから日も浅く、殆ど対象児を受け持たなかった為)

●研究期間：院長承認後から～2023年2月末日

●利用する検体やカルテ情報

カルテ情報：なし

●検体や情報の管理

情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

国立病院機構西新潟中央病院

所属；1病棟

職名：看護師

氏名：渡辺志穂

電話： 025-265-3171（代表）